

主なご意見やご要望

■少子化対策・結婚支援

Q. 少子化対策に力を入れてほしい。地域に30代、40代で未婚の方がいるため、各行政区に結婚推進員(相談員)を置くなどしてまずは自身の方の結婚を支援する政策を考えてほしい。

A. 少子化は町だけではなく日本全体の問題。国も力を入れており、以前森まさこ元少子化担当大臣にお会いした際には「福島県の場合、結婚した夫婦であれば平均して2人の子供がいるというデータがあるので、少子化対策としてまずは結婚を支援してはどうか」と勧められた。

現在、町では異業種交流会による婚活イベントの準備が進められており(※報告会当時の状況。3月8日イベント実施)、町としてもこれを支援して男女の出会いを応援していく考えである。

お話のあった結婚世話人

を置くのも地域の結婚を促進する一つの方策と思う。

Q. 少子化対策の意味で、病院に産婦人科と小児科の設置をお願いしたい。

また過去の将来人口予測で20年後に町の若者が半分以上になってしまおうというものがあつたが、実際にはもっと減ってしまう可能性もあると思う。人口がどのくらいあれば町はやっていいのか考えないといけないのではないか。

A. 病院については、県全体で医師不足が問題となっており、産科医の確保がでない状況が続いている。医師確保に向けた取り組みは現在も行っているところであり、今後も継続して取り組んでいくのでご理解をお願いしたい。

少子化は、結婚してから子供が生まれるまでに一定の時間がかかることもあつてすぐに解決することは難しい問題である。国もようやく本気になってきたところ

るので、町としても人口減少に歯止めをかけるために努力していく所存である。簡単ではないが、未婚者の結婚を促進し、人口減少に歯止めをかけるための取り組みを進めていく。

■住宅などの整備

Q. 町に復興のための交付金がたくさん入っているとと思うが、それを活用して復興のための住宅を建ててはどうか。小野町は交通の便が良いし、住居を求めている人はたくさんいると思う。

A. 町としては、活用できる交付金は最大限使っていくという方針だが、復興のための交付金はさまざまな種類があり、それぞれ活用できる用途が限られている。現状、小野町がもらえる交付金で住宅を建てるのは難しい。

Q. 町では今、かなりのスピードで人口が減っていると思う。人口減少への対策としては、若者の定住が必要だ



と思うが、そのためには住むところが必要である。若者や避難者をターゲットにした公営住宅を建てる考えはないのか。

A. 公営住宅については、既存のものの改修を基本的に考えているが、民間アパートが避難者や作業員の需要があつていっぱいになっていく現状を考えると、少子化と人口減少を解決するにはその受け皿となる住宅が必要なのは間違いない。適地があれば建設したいという思いはあるため、建設の候補地——公立病院の跡地など——や運営方法——若者向け住宅の試験実施など——について検討し、町内に入ってくる人たちのための環境整備を行いたい。また小野高校についても支援

を行い、卒業した若者が少しでも定住するよう取り組んでいきたい。

Q. 町外からの移住に対する町の受け入れ体制はどうなっているのか。具体的な施策はあるのか。

A. 移住者の受け入れについては、これまで民間団体と協力して取り組んできており、体制の整備を図ってきたところ。今後は空き家の活用などが必要になると考え、実施を検討していた。

町営住宅は現在空きがない状況だが、可能な限り情報提供などを行っていききたいと考えている。

■企業誘致

Q. 雇用の場を確保するのが人口減少対策として一番だと思うので、工業用地の確保をお願いしたい。鶴庭工業用地の南側の広い池を埋め立てて工業用地にできればもう1社くらい立地できるのではないか。

また6月議会の一般質問時には費用対効果を考えて